

25. しかし、私の兄弟、同労者、戦友、

また あなたがたの使者として私の窮乏のときに仕えてくれた人 「必要に」とすべき
エパフロデトは、あなたがたのところに送らねばならないと思っています。

26. 彼は、あなたがたすべてを慕い求めており、

また、自分の病気があなたがたに伝わったことを気にしているからです。

27. ほんとうに、彼は死ぬほどの病気にかかりましたが、神は彼をあわれんでくださいました。

彼ばかりでなく私をもあわれんで、私にとって悲しみに悲しみが重なることのないようにしてくださいました。

28. そこで、私は大急ぎで彼を送ります。

あなたがたが彼に再び会って喜び、私も心配が少なくなるためです。

29. ですから、喜びにあふれて、主にあって、彼を迎えてください。

また、彼のような人々には尊敬を払いなさい。

30. なぜなら、彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して死ぬばかりになったからです。

彼は私に対して、あなたがたが私に仕えることのできなかつた分を果たそうとしたのです。

25. しかし、私の兄弟、同労者、戦友、

また あなたがたの使者として私の窮乏のときに仕えてくれた人
エパフロデトは、あなたがたのところに送らねばならないと思っています。

Vnagkaión de. h̄ghsamhn

Epafroditon ton adelphon kai. sunergon kai. sustratiw̄thn mou(

uimw̄h de. apostolon kai. leitourgon th̄j creiaj mou(pemvai proj uimaj(
need, lack, necessity; 「必要に」

27. ほんとうに、彼は死ぬほどの病気にかかりましたが、神は彼をあわれんでくださいました。

彼ばかりでなく私をもあわれんで、私にとって悲しみに悲しみが重なることのないようにしてくださいました。

kai. gar h̄sqenhsen parapl̄hsion qanatw̄|.

ālla. o`qeoij h̄vehsen auton(ouk auton de. monon ālla. kai. eme(īha mh. luphn epi. luphn scw̄Å

29. ですから、喜びにあふれて、主にあって、彼を迎えてください。

悲しみ、痛み、不承不承、嫌々ながら

また、彼のような人々には尊敬を払いなさい。

prosdcesqe ouā auton en kuriw̄| neta. pashj caraj

kai. touj toioutouj entimouj exete(

: honored, respected, esteemed, highly prized, valuable、重んじられている、身分が高い、

30. なぜなら、彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して死ぬばかりになったからです。

彼は私に対して、あなたがたが私に仕えることのできなかつた分を果たそうとしたのです。

ōfi dia. to. ergon Cristou/ mecri qanatou hggisen paraboleusamenoj th/ yuch(

approach hand over the life, expose oneself to danger

īha anaplhrwsh to. uimw̄h usterhma th̄j proj me leitourgiajÅ

乏しさ、不足分、欠け、 service, ministry

説教

エパフロデトは、ピリピ教会から獄中のパウロのもとへ遣わされてきた使者でした。

ピリピ教会は、パウロがかのマケドニアの叫びを聞いて海を渡りヨーロッパで宣教した最初の実です。

紫布商人ルデヤという女性とその家族が最初にイエスさまを信じて教会が始まります（使徒 16:11-40）。

それ以来、ピリピ教会は献金を送ってパウロの伝道をずうっと支え続けました。

実際には、彼らは「苦しみのゆえの激しい試練」に遭って「極度の貧しさ」の中にありましたが、

それでもキリストに罪贖われ救われた喜びが満ち溢れていたために、「自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ」て、

パウロの「期待以上に」献身的に献金を捧げて「聖徒たちを支える交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に願った」のです。

（コリント 8:1-5）

それで、

ピリピ教会は、創立当初から（ピリピ 4:15）、パウロがヨーロッパで伝道する間中、

コリントにいた時にもテサロニケにいた時にも、さらには獄中にある時にも、献金を送ってパウロの生活と働きを支えます。

パウロは、テサロニケ、アテネ、コリントで伝道しますが、

「私の働きのために、

物をやり取りしてくれた教会は、

あなたがたの他には一つもありませんでした。」（ピリピ 4:15）

とパウロ自身が証言するように、このピリピ教会ひとつがパウロの戦いを支えたのです。

それで、

第二コリント書では、8章、9章、11章と三つの章を割きながら、

ピリピ教会を模範として献金に励むようコリントの教会の兄弟姉妹に勧めています。

「それにしても、

あなたがたは、よく私と困難を分け合ってくれました（直訳は『私の苦しみにあずかってくれました』）」（ピリピ 4:14）。

こうパウロがほめるほど、ピリピ教会はパウロが大きな信頼を寄せる模範的な教会でした。

エパフロデトは、そのピリピ教会から派遣されました。

その目的は、獄中で苦勞しているパウロに献金を届け、鎖につながれて不自由なパウロの身の回りの世話をするためです。

しかし、長旅の疲れか、

はたまた牢獄の劣悪極まりない環境に耐えられなかったのか、

残念なことにエパフロデトは「死ぬほどの病気」にかかってしまいます（2:27）。

パウロの懇意な看病によってか何とか一命はとりとめたものの、

これ以上の滞在は困難と判断したパウロは、エパフロデトを「大急ぎで」ピリピに送り返そうとします。

パウロを世話するはずが逆に世話されるハメになってしまい、

おまけに何も役に立たぬまま早々と送り返されてしまう情けなさをしきりに気にしているエパフロデトを気遣って、

パウロは「喜びにあふれて主にあって彼を迎えてください。彼のような人々には尊敬を払いなさい。」と一言付け加えるのでした。

「せっかく教会が祈って送り出しているのに

途中で挫折とは情けない間抜け者だ。」とバカにされるかも知れない彼を配慮しての一言でありました。

でも、パウロの「彼のような人々には尊敬を払いなさい。」（29）とは単にエパフロデトを庇うための言葉ではありませんでした。

むしろそれは本気でエパフロデトの信仰を評価して褒める言葉です。

そして、それは同時に、ピリピ教会の他の兄弟姉妹がそれを模範にするようにと勧める言葉でもありました。

どうしてエパフロデトが尊敬に値するのでしょうか？

その理由は、「彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して死ぬばかりになったからです。」(2:30)

エパフロデトは、ピリピ教会の兄弟姉妹がパウロに「仕えることのできなかつた分を懸命に果たそうとしました」(2:30)。

それがたたって死ぬほどの病気にかかってしましますが、でも、その犠牲はむしろ「尊敬」に値するとパウロは考えたのです。

パウロは、エパフロデトが何をなしたかということではなく、

何のために、もっと言えば、誰のために事をなしたのか、ということに着目していたのです。

そして、そのお方のために、つまり、キリストのためにどれだけ犠牲を払ったのか、ということに率直に評価しているのです。

私たちはつい世間的な価値基準で人の功績を計ろうとします。

何点取ったかとか、いくら稼いだとか、

どんなものを建てたとか、どれだけ有名になったとか、

どれだけ国や社会に貢献したとか、そういう価値基準で人を計ります。

でも、何より大切な価値観は、**何のために**生きるかということではないでしょうか。

そして、神さまの造られたこの世界に生きる私たちにとって、

一番大切な価値基準は、「**神さまのために**」という基準であるはずで

神さまのために何をするのが、

そして、**そのためにどれだけ真剣に本気で打ち込むか**という基準です。

そういう基準で見ると、(失敗はしたけれども)

まさにいのち賭けてキリストの仕事をしたエパフロデトは、パウロの言う通りまさに「尊敬を払う」に値する人物だと思います。

主にあるパウロの「兄弟」であることは言うまでもなく、

使徒パウロの「同労者」であり、共にいのちを賭けて主のために戦う「戦友」でもあるのです(25)。

こう呼ばれたエパフロデトは、この時一度は失敗するものの、

これでめげてしまうことなく、後に、パウロの晩年、悲願を果たします。

コロサイ人への手紙を見ると、「私たちと同じしもべである愛するエパfras(エパフロデトの省略形)」と出てきます。

「彼は私たちに代わって仕えている忠実な、キリストの仕え人」だと言うのです。

その前後の記事も参考にすると、エパフロデトは、ピリピ教会のみならず、コロサイ教会のためにいつも熱心に祈り、

おそらくパウロが獄中にいて外に出て行かない分、パウロの手となり足となり、パウロに成り代わって、

コロサイ教会のために奉仕して「コロサイ教会、ラオデキヤとヒエラポリスの教会のために非常に苦労し」と言われています。

そして、ピレモン書を見ると、「キリスト・イエスにあって私とともに囚人となっているエパfras」とありますので、

結局、それからパウロと同じく捕まって、パウロと同じ牢に投獄されて、「囚人」となりながらパウロの世話をしたようです。

このようなエパフロデトのまさにいのちを賭けてパウロを助けようとする奉仕は、

同じくいのちを賭けて伝道していた使徒パウロにとって、どんなに大きな慰めをもたらしたことでしょ

そして、

背後からパウロのために祈り、

貧しい中から精一杯の献金を送って自分の働きを支え続けてくれるピリピ教会に、どんなに励まされたことでしょう。

みなさん、パウロのようにいのち賭けで伝道する伝道者にとって、励ましとなることは何でしょうか。それは、自分と同じように、キリストのためにいのちを賭けて奉仕している者がいるということです。それ以外のことは、何の慰めにも励ましにもなりません。

「いやー、パウロ先生はさすがですねー！

すばらしい献身ぶり、すばらしい伝道の成果、

すばらしい教会形成！牧会者の鏡！」といくらおべっか使って褒めても、そんなものは何の励ましにもならないのです。ただ言葉だけで、何の具体的な助けもない、主のために犠牲を払って、主のために何もかも捧げて、いのち賭けで奉仕している者は自分ただひとりだけで、あとの人はみな白けて、冷めた目で眺めて、

「はぁー、よくやるわ、まあ、せいぜい頑張っただけ」ぐらいの感じだったら、どうなりますか？

そんな信徒はたとえ一万入っても、何の励ましにもなりません。

いない方がいいぐらいかも知れません。

パウロは主のためにすべてを投げ出した人ですよ。

自分の人生すべてを捧げたのです。

本当にいのちを賭けて主のために奉仕しているのです。

誰よりも犠牲を払って主のために奉仕しているのです。

「牢に入れられたことも多く、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした」と告白しています。伝道しては投獄され、釈放されたらまた伝道する、伝道と投獄を何度も繰り返し、最後は死刑に処されて殉教するのです。

「私は、主イエスの御名のためなら、

エルサレムで縛られることばかりでなく、死ぬことさえも覚悟しています。」と告白しています。

パウロは、いつも主のために死ぬことを覚悟して伝道していたのです。

そのような主のしもべパウロに一体どんな言葉が彼を慰めるというのでしょうか。

どんな言葉をかければ、彼を励ますことができるのでしょうか。

言葉ではないのです。

その中身です。

そして、このようないのち賭けの伝道者を真に励ますのは、エパフロデトのような、いのち賭けの奉仕者です。

本当にバカみたいな、キリスト馬鹿の、常識外れの、キリストのためにいのちを投げ出して奉仕する、いのち賭けの奉仕者です。

そして、同じく常識外れで、バカみたいに、自分たちも貧しいのに、

その貧しい中から精一杯の献金を送って自分の働きを必死に懸命に支え続けてくれるピリピ教会のような後ろ盾です。

エパフロデトからいのち賭けの献金をもらったパウロは、喜びと感謝をもってこう告白します。

「私は、すべての物を受けて、満ち溢れています。」(4:18)。

その前後を読むと、こうなります。

17. 私は贈り物を求めているわけではありません。

私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです。

18. 私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。

エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。

それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。

パウロは、くれる人なら誰でもいいからと、誰彼選ばず浅ましく献金をもらった人ではありません。

心ないコリント教会からは鏝一文もありませんでした。

なぜでしょうか？

もらったら、後で何を言われるかわからないからです。

タダより怖いものはありません。

後で嫌みを言われたり文句を言われるくらいなら、初めからもらわない方がましです。

だから、コリント教会からは一銭も貰いませんでした。

彼らの信仰があまりに幼くて未熟だからです。

安心して貰えなかったのです。

貰うと平安ではありませんでした。

でも、ピリピ教会は違います。

ピリピ教会からは喜んで貰いました。

安心して貰うことができたのです。

そして、その贈り物は、パウロを不安にさせたのではなくて、むしろ反対に喜ばせたのです。

満足させました。

「私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです。」

物もありがたいけど、

でも、もっとありがたいのは、パウロの働きを何とか支えて主のお仕えしたいという「霊的祝福」だということです。

そのためにルデヤは一生懸命に紫布を売って商売に励んでパウロの働きのために献金したことでしょう。

「主イエスを信じなさい。

そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と伝道されて救われた看守も、

自分はそれほど裕福ではないにしても、

与えられた給料の中から忠実に十分の一の献金と宣教献金を捧げてパウロの働きを懸命に支えたことでしょう。

このようなピリピ教会の献金がパウロを喜ばせたのです。

そして、このピリピ教会の献金をエパフロデトのような立派な人物が持って来てくれました。

しかも、いのち賭けで持って来ました。

そして、獄中のパウロ先生を何とか励ました助けたいという一心で、我が身を忘れて奉仕する彼の姿にパウロは慰められたのです。

それは、あたかも、おそらく、

貧しい中、自分たちの精一杯の捧げ物をもって

パウロを支えたいという、ピリピ教会の兄弟姉妹の姿と重なって、励まされたのだと思います。

「彼は、あなたがたが私に仕えることができなかつた分を果たそうとした」（30）とパウロが言うのは真実だと思います。

エパフロデトは、

パウロに対するピリピ教会の祈りの実であり、パウロを何とか助けたいと願うピリピ教会の一途な思いの表れなのです。

それで、パウロは、

18 . 私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。

エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。

それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。

神の愛と恵みに満ち溢れた信仰の捧げ物をエパフロデトの手から受けて、すっかり満ち足りたのです。

満足しました。

それまでの伝道の苦勞が吹っ飛びました。

獄中での想像を絶する苦勞も報われたのです。

大きな慰めと励ましを受けたのです。

私たちはどうでしょうか？

これもまた、教会が成長する、あるいはキリスト者として成長していくことの極めて重要な側面であろうと私は思います。

教会の成長とは、コリント教会のように、ただ人数だけ増えて大きく膨張していることではありません。

それは教会「膨張」と言うべきであって、教会「成長」とは言えません。

最近流行の会堂建築もいいですが、大きな会堂を建てるのが教会の成長であると一体聖書のどこに書いてありますか？

キリスト者として成長するというのも同様です。

よく伝道する、社会で成功してキリスト者としての証しを立てる、そういうこともいいかも知れません。

でも、何のために働くのでしょうか？

何のために私たちは生きるのでしょうか？

キリストのためです。

神のためです。

神と人に仕えるためです。

そのために一生懸命に働き、稼ぐのです。

「だれもみな自分自身のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことを求めてはいません。」(2:21)とパウロは言います。

そして、自分自身のことしか求めない者の結末は「滅び」だと3章19節で言うのです。

「彼らの最後は滅びです。

彼らの神は彼らの欲望であり、

彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。

彼らの思いは地上のことだけです。」

私たちは、パウロが絶賛し、良き模範として何度も引き合いに出しているピリピ教会を目指しましょう。

その代表として、エパフロデトのような、使徒パウロから「戦友」と呼ばれるような奉仕者を目指しましょう。

「だれもみな自分自身のことを求めるだけで、

キリスト・イエスのことを求めてはいません。」

そういう世にあって、

キリストのために生きる、エパフロデト、ピリピ教会を、私たちの成長の大きな目標としたい、

そして、エパフロデトのように、死にそうになりながらも主のために仕える本物の奉仕者になりたい、

ピリピ教会のように、貧しくても主の働き人を精一杯支え続ける教会になりたい、心からそう願います。

この赤羽聖書教会は、関東宣教区の中では一番献金の多い教会ですが、正しく献金を使っていると思います。

担任牧師の生活を支え、協力牧師、神学生を支援し、

引退牧師夫妻、召天牧師の夫人を支援し、教団の中の貧しい教会を助けることで全部使い切っています。

昨年は大きな赤字を抱えて会堂会計から借りていて苦しい経営状態にありますが、でも聖書的に見るとそれでも健全だと思います。

飢えている教職者を見て見ぬふりしながら、立派な会堂を建ててどうするんですか？

イエスさまなら、どうなさいますか？

パウロなら、どう言いますか？

ピリピ教会なら、どうすると思いますか？

飢えている教職者は勝手に飢えさせて、お前たちは立派な会堂建てろと言いますか？

飢えている神学生を見殺しにして、お前たちはその血の上に会堂を建てろと言いますか？

私の信じるイエスさまは、そう言われなと思いますよ。

ボロ屋に住んでも、助けろと言われると思います。

なぜなら、イエスさまも、ご自分がいのちを捨て、貧しくなって、私たちにいのちをお与えくださったからです。

今の教会の課題は、小林伊佐美神学生の生活を支援するということです。

役員会で支援の額を増額することを決めました。

全然充分ではないと思いますが、このために祈り、支えてください。